# 第１章　2019年度京都大学構内遺跡調査の概要

冨井　眞

## １　調査の経過

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門では，吉田キャンパスおよび附属施設の敷地内における建物の新営などの掘削をともなう工事に際し，予定地の埋蔵文化財調査を，既知の遺跡との関係や過去の調査結果に照らして，発掘・試掘・立合にわけて実施してきた。2019年度には，以下のように立合調査16件，資料整理１件をおこなった（括弧内は，図版１および表11の地点番号）。

立合調査　京都大学（北部）ガス管改修工事（北部構内ＢＣ32区）　（第１章，図版１－471）
京都大学（本部）総合研究棟１号館汚水配管改修工事（本部構内ＡＹ23区）（第１章，図版１－472）
京都大学（北部）基礎物理研究所電気室設置工事（北部構内ＢＦ34区）（第１章，図版１－473）
京都大学（医学部）基幹・環境整備工事（医学部構内ＡＮ16区）（第１章，図版１－474）
京都大学（薬学部）基幹・環境整備工事（病院構内ＡＪ13区）（第１章，図版１－475）
京都大学（医学部）基幹・環境整備工事（医学部構内ＡＭ18区）（第１章，図版１－476）
京都大学（宇治）グラウンド改修工事（第１章，表11－477）
京都大学（人文研）別館設置改修工事（人文研構内ＢＤ41区）（第１章，図版１－478）
京都大学（吉田南）基幹・環境整備工事（吉田南構内ＡＲ25区）（第１章，図版１－479）
京都大学（北部）基幹・環境整備工事（北部構内ＢＦ28区）（第１章，図版１－480）
京都大学（本部）屋外給水設備改修工事（本部構内ＡＹ28区）（第１章，図版１－481）
京都大学（西部）屋外給水設備改修工事（西部構内ＡＷ20区）（第１章，図版１－482）
京都大学（北部）屋外給水設備改修工事（北部構内ＢＤ32区）（第１章，図版１－483）
京都大学（病院）総合研究棟改築その他工事（病院構内ＡＦ12区）（第１章，図版１－484）
京都大学（西部）基幹・環境整備工事（西部構内ＡＸ20区）（第１章，図版１－485）
京都大学（本部）基幹・環境整備工事（本部構内ＡＴ28区）（第１章，図版１－486）

資料整理　京都大学外国人宿舎新営（京都市白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡）（第２章，図版１－463）

## ２　調査の成果

以上のうち，2019年度に整理を終えたものについて，成果を略述する。なお，白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡の調査成果は，近世については前年度（2018年度）年報に報告済みであり，中世以前については第２章で成果を詳述しているので，参照されたい。

**白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡の発掘調査**　本調査区は，平安時代後期に白河街区

に相次いで建立された六勝寺の一つである延勝寺の跡地に比定されている。また，弥生～古墳時代を中心とする岡崎遺跡の範囲内でもある。

古代・中世の遺構では，平安時代後期～鎌倉時代前期の年代におさまる方形石敷土坑・井戸・土器溜・瓦溜などを検出した。出土遺物には，大量の土師器皿や多種多様な軒瓦のほか，墨書のある曲物をはじめとして祭祀具など多くの木製品がある。年代的には12世紀中頃を中心としており，延勝寺の創建頃にあたるが，延勝寺と直接的に関連づけられる遺物は見出せなかった。方形石敷土坑は，底面に，上面中央に溝を有する角材を井桁状に組み，内側に石を敷く。特異な遺構であり，速報して情報収集に努めたが〔伊藤・冨井2019〕，いまだ類例を知らない。もっとも，水溜施設と配石をともなう土器溜が隣接することから，水を用いた祭祀施設の可能性を考えられる。延勝寺と確定できる建造物は検出されていないが，この特異な方形石敷土坑の存在は，今後に寺域を検討していくうえでも重要な情報となろう。

歴史時代の遺構面より下位となる下層は，低湿性の環境下であり，調査区東辺では滞水と出水を繰り返しながら南流していた流路を検出し，そこから古墳時代前期までの遺物が多量に出土した。掘り込みなどの明確な構造をもつ遺構は確認し得なかったが，遺物を多く含むその自然流路のほかに，流路の上面や埋積砂層中に土器集中部５箇所も検出した。年代的には，弥生時代後期末～庄内式期前半のものがほとんどを占める。調査地の東側に岡崎遺跡の主たる活動域が展開していることを示唆する情報と言えよう。また，調査区北辺では，広鍬の泥除未成品と推定される板状木製品が出土しており，詳細に検討を加えるとともに，放射性炭素年代も測定した。

本調査区では，このほかに，古代から中世の時期に大規模な地震が発生した可能性を指摘し得たほか，およそ３万年前の降灰である姶良Ｔｎ火山灰の堆積を確認している。

## ３　学 術 調 査

前年度年報の序文にあるように，文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門は，かつて吉田キャンパスの所在地を横切っていた古道「白川道」に関する研究プロジェクトを進めている。本年度は，白川道の変遷やそれを分断した尾張藩吉田邸の敷地域を確定するため，12月に，天理大学の協力のもと本部構内の４か所で地中レーダー探査調査を実施した。結果の検討とそれをふまえた試掘調査による検証は，2020年度に実施予定であり，成果を科学研究費成果報告ならびに次年度年報などにて報告する予定である。